

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	令和2年度河川研究会報告現場研修 (CPD 番号 2- 1)
主催	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部河川研究会報告
日時	令和2年10月23日(金) 10:30 ~ 15:00
場所	大船渡市、陸前高田市
参加人数等	会員：24人 説明：岩手県大船渡土木センター職員、岩手県大船渡水産振興センター職員

活動内容

1 事業概要 東日本大震災津波により被災した大船渡市、陸前高田市における津波対策、河川改修、砂浜再生、新たに整備する復興祈念公園に関すること (1) 大船渡市細浦漁港起伏式フラップゲート) 目的：発生頻度の高い所謂L1津波対策TP+7.5m、起伏式ゲート1基、延長41m、事業期間：平成24年度～令和2年度、以下は陸前高田市 (2) 川原川多自然川づくり) 目的：治水安全度1/30、河川改修、延長約1.2km、事業期間平成元年度～令和2年度 (3) 気仙川水門) 目的：L1津波対策TP+12.5m、水門5門 幅211m、吊上げは2モーター4ドラム、事業期間平成23年度～令和2年度、(4) 高田松原津波復興祈念公園) 目的：追悼・鎮魂、面積約130ha、事業期間平成27年度～令和2年度 (5) 高田海岸防潮堤) 目的：L1津波対策TP+3.0m一線堤延長約1.9km+TP+12.5m二線堤約2.0km、事業期間平成23年度～令和2年度 (6) 高田海岸砂浜再生) 目的：津波で流出した砂浜の再生、延長700m、幅60m、事業期間平成25年度～令和2年度

2 現場研修 ※新型コロナウイルス感染症対策を講じ研修を行いました。特記事項を掲載。

(1) 細浦漁港) ・日本で初の津波水門方式・本方式は、地形、漁港という条件を勘案し採用・フックが外れ浮力により水門が立ち上がる (2) 川原川多自然川づくり) ・周辺の土地区画整備、公園整備と一体となった環境に配慮した川づくり・河川区域と公園区域のすみ分け確認・被災前にあった石積みと同等採用・橋梁架替え時、占用工作物の景観も配慮必要☆設計・施工計画、管理に関し様々質疑応答できました。☆令和2年度の完成に向け着実に進捗していることを実感しました。

(1) 細浦漁港：大船渡市)



(2) 川原川：陸前高田市)



(3) 気仙川水門) ・土木工事、水門設備工事ほぼ完成・Jアラートによる水門自動閉鎖システムは、バックアップとして事務所、自治体からも遠隔操作可能・避難路として管理橋を活用 (4)、(5)、(6) 高田海岸周辺整備) ・防潮堤施工の際、沈下対策として余盛施工し計画高さ確保・天端にある穴は、盛土の点検孔と L2津波時の揚圧力対策・砂浜再生の砂は従前と同様な品質を確保できる砂を選定・砂浜再生を保持するため、沖合には3基の従前からあった人工リーフを復旧・砂浜再生には長期スパンのモニタリング行う☆設計、施工計画に関し様々質疑応答できました。☆令和2年度の完成に向け着実に進捗していることを実感しました。

(3) 気仙川水門＝水門設備内機械室



(5) 高田海岸砂浜再生

